



財団法人柳田國男・松岡家
顕彰会記念館
〒679-2204
神崎郡福崎町西田原 1038
の12
電話：0790-22-1000

企画展

松岡映丘画稿展 動物編

3月6日(土)～3月31日(水)

記念館では今年度、松岡映丘の画稿展を『こども編』『社寺、祭祀編』として展示しましたがその最後を飾る『動物編』を開催します。

映丘の描く動物には何かしらユーモラスなタッチが窺えます。皆さんも是非、お越しいただきその筆遣いをお楽しみください。

場所 柳田國男記念館

2階



松と猿

福崎町の方言

前回から始まった福崎独特の語彙です。

今回は冬の食べ物についての言葉をみましましょう。

「ズムシ」

これは熟した柿をさす言葉です。数十年前までは、こどものおやつとしてよく食べていましたね。



加西など近隣地域でも使用されているようです。

「カントダキ」

冬には欠かせないお料理、「おでん」を意味する言葉で、関東炊きのこと。

江戸時代に濃口醤油が発明され、江戸では醤油味の濃い出汁で煮た「おでん」が作られるようになり、それが上方に伝わり、「関東炊き」や「関東煮(かんたき)」と呼ばれるようになりました(他説あり)。

<http://ja.wikipedia.org/>



くによはん覚書

○御辛勞の池

むかし肥後国の八幡村

で、御社の近くの古池の

水をさらえて、池の魚を

捕ろうとしたことがあ

りました。八月一日の日

であつたといいますが、

朝から村の人たちが残

らず集まつて、せつせと

水を汲み上げましたけ

れども、いつ迄経つても

かえ乾すことが出来ま

せん。

そのうちに夕方になつて、もう大分底に近くなつたように思っていますと、だしぬけに見たことのない人が一人、そ



の水の中から出て来ました。そうしてぴよこんと御辞儀をして、皆様御辛勞と言ったかと思ふ

と、忽ち何処へか消えてしまつて、池の水はすぐに又もとの通り、池に

一ぱいになってしまいました。それからこの池の名

を御辛勞の池と謂つて、

誰も魚を捕ろうとする者がなくなりまして。

(肥後玉名郡) (出典 柳田國男、日本昔話集)

遠野物語100周年

今年6月に発刊100周年を迎える遠野物語は、柳田國男の代表作で、今なお多くの人に読み継がれています。遠野市では、この節目の年に様々な催しが行われます。

会員募集中!

財団法人柳田國男・松岡家顕彰会は、一昨年、会員制度を発足させました。入会者には会員証をお渡ししています。

法人会費 一〇〇〇〇円
個人会費 一〇〇〇円



特典

記念館無料入館
個人(本人+家族一名)
法人(二口・四名まで)
もちむぎのやかた
レストラン1割引他



ご利用案内

【開館時間】
午前9時～
午後4時30分

【休館日】

月曜日・祝日の翌日、
12月28日～1月4日

【入館料】

(団体割引は
大人200円2名以上)
学生150円
小人100円

会員の方は更新をお願いいたします。